

# さとおやオピニオン (公開版)



レインボーフォスターケア



## 【公開にあたって】

2015年7月8日、一般社団法人レインボーフォスターケア（当時は任意団体）は、大阪市淀川区LGBT支援事業の一環として行われている大阪市職員との意見交換会（テーマ：「LGBTと里親」）に出席しました。

出席に先立ち、所要2時間の意見交換会では、「『LGBTと里親』について意見を伝えきれないのではないか」という懸念があり、3頁に掲載されているとおり「さとおやオピニオン」を募集し、集まった意見を冊子にまとめ、意見交換会に出席していた大阪市職員、里親委託業務を行う公益社団法人職員の方々に手渡しました。

その意見交換開催後、LGBT支援事業ニュースレター「虹色ニュース！」2015年9月号にて、淀川区榊区長とLGBT支援事業担当職員が大阪市こども相談センター所長と面談のうえ確認した内容として、大阪市こども相談センターから、

- ・里親として適任者であれば、差別や偏見でもってLGBT当事者を排除することは絶対にない
- ・週末里親もそうだが、いま養育里親が不足しており、まずは養育里親に登録することから広めてはどうか？
- ・養育里親への登録は、研修などを受けないといけませんが是非登録してほしい！
- ・そして、登録後に子ども達にあった里親であればマッチングをします！
- ・特に今は年齢が少し高い子ども達の養育（里親）に困っている！
- ・私達（こども相談センター）を信用してください！
- ・まずは、直接、相談に来てください！

とのメッセージが発信されました。

自治体サイドから「里親として適任者であれば、差別や偏見でもってLGBT当事者を排除することは絶対にない」「相談に来てください」とのメッセージが発信されることは非常に画期的です。自治体を動かしたのは、先立って行われた意見交換会において市職員の方々に手渡された「さとおやオピニオン」の冊子が大きな役割を果たしているものと思われます。

私たちは、この冊子の内容をもっと多くの人に広めたいと思い、執筆者の了解を得て公開することにいたしました。

3頁以降は、手渡し時の表現をそのまま掲載しており、特に3頁では「※『職員の方に届ける』みの目的で募集いたしましたので、個人情報の取り扱いにはご配慮ください。」

との表現が残っておりますが、意見交換会で「何をどのように伝えたか」という記録であり、表現を変えずに掲載していることをご理解ください。（もちろん、この公開版は公開可能です。）

意見交換会で伝えた10通の「オピニオン」。

どのオピニオンもそれぞれの立場から、それぞれの熱い想いが込められております。

多くの方に読んでいただき、「LGBT（性的マイノリティ）と里親制度」について考えを深めていただければ幸いです。

2016年9月

一般社団法人レインボーフォスターケア

※今回の公開に当たって、以下の点を変更しております。

- 一部執筆者の要望により、当該執筆者については匿名もしくは仮名としております。
- 執筆者の了解を得て漢字や文法の誤りを訂正しました。
- 8頁に掲載の、ほのりさんとまうりさんの「立場」については意見交換会において口頭で説明したため、追記しました。

ご了承ください。

## はじめに

「LGBT（性的マイノリティ）と社会的養護」を考える任意団体「レインボーフォスターケア」は、このたびの意見交換にあたり、2015年6月3日から約1か月間、以下のとおり「さとおやオピニオン」を募集しました。

### 【LGBT 里親に関する意見を募集中！】

レインボーフォスターケアは、自治体職員と「LGBT（性的マイノリティ）と里親制度」について意見交換をすることになりました。

そこで、LGBT 当事者から、次のような意見や体験談を募集しています。

- ①里親登録などに関する問い合わせをしたところ、電話や窓口で断られた体験
- ②将来的に里親になりたいという思い、不安や疑問
- ③「LGBT と里親制度」に関する意見  
などなど。

③については、支援者の方（親族や友人がLGBT、里親制度に関心のある方、LGBT を応援したい里親さんなど）からも意見を募っています。

「LGBT と子育て」の意見でも構いません！

（LGBT の子育てに対する偏見が、里親委託の足かせになる場合もあるからです。）

こちらで集めた意見や体験談は職員の方に届けてきます。

rainbowfoster13@gmail.com までどうぞよろしくお願いします！

件名は「さとおやオピニオン」。

お名前（仮名でも可能です）、お住まいの都道府県、自らのお立場、なども付記して下さると助かります。※こちらの情報は意見とともにお伝えする可能性があります。

この募集に対して 10 通の意見が届きました。セクシュアリティも立場も異なる方々の貴重な意見です。ぜひお読みください。（太字部分や字のフォント変更は作成者が行いました）

※「職員の方に届ける」のみの目的で募集いたしましたので、個人情報の取り扱いにはご配慮ください。

2015年7月8日  
レインボーフォスターケア

【名前】木ノ内 博道 【都道府県】千葉県

【立場】元里親

LGBTのカップルから里親希望の申し込みがあっても、行政はきちんと向き合わずに、単身者として里親申請をしたというような解釈をしてしまいます。きちんと向き合おうとしないと（現実に向き合っていないと）、問題が隠ぺいされてしまうと思います。

LGBTだけでなく、**少数者への配慮のない社会であってはいけない**、と言うのが私の思いです。そういう視点から、LGBTの人たちの生きづらさの伴走者になりたい、と。

とくに子どもたちが少数者であることによって社会から否定されることのないようにしたい。

**LGBTの人たちが社会から受け入れられて里親活動をしているシアトルの人たちを見て、こんな社会であってほしいと、理屈抜きで感じました。**

【名前】小浜 耕治 【都道府県】宮城県

【立場】50代、NPO 役員

子育ての現状を考えると、介護分野のように、いかに社会化していくかが課題なのだと思います。

**母親だけに押し付けず、社会の多様な人たちでその子の成長を見守る。**

それが、育てる環境・育つ環境を社会全体に保障すること、そして、豊かにしていくことになると思います。

公的な資源を整備することはもちろん必要ですが、子育ての社会化についての地域のコンセンサスを得てみんなで育てるという視点がまず前提となると思います。

そう考えるとき、**LGBTもその担い手として期待されているのだというメッセージはLGBTと子ども、養育者にもっと提供されるべきだ**と思います。

実子や養子、里子という形でLGBTが子育てに参画している状況を作ることはその象徴的なメッセージとなります。

クローゼットで地域から孤立し地域での貢献を諦めがちなLGBTが多い現状を打破し、小さいところからでも、できうる範囲で子育ての社会化に参画していく。

そのための取り組みが、**子育て分野とLGBTの協働**でなされてゆくことがとても重要だと感じます。

【名前】遠藤 まめた 【都道府県】神奈川県

【立場】FTMトランスジェンダー

生物学的な子どもを持つことができないけれど、子どもがいる暮らしは良いなあと思います。

シングルマザーの方と何年間かお付き合いをした経験がありますが、**次の世代の小さな人と一緒に過ごす時間が、とてもかけがえのないものだと思いました。**

動物園にいったり、ちらしずしや餃子を作ったり、鼻水をふいたり、当たり前のことをやっているだけでしたが、自分には意味の大きいことでした。

**生物学的な理由だけではなく、社会的な理由から、自分に子どもがいる暮らしができないのは残念だと思います。**

子どものことを大切にできる自信もあります。

一定の要件をクリアしないと戸籍の性別が変えられないために、私は女性と付き合っても「同性」同士の扱いです。

**私が手術をして健康を害さなくても、子どもを持てるようなチャンスがほしいです。**

【名前】坂間 多加志 【都道府県】静岡県

【立場】里親

①LGBTの方が里親という選択肢と出会えない状態を改善してほしい。LGBTを対象にしたことに限ったことではないが、里親制度の広報の仕方に問題がある。

②だからといって、大人（こどもがほしい大人）のための制度でないことを忘れずに。

③LGBTの大人とこども、これは家族の形としてあり得る。現在、日本の社会的養護のメインである施設の人間関係は家族・家庭とは言えないが、家庭的養護という言葉でごまかしながら小規模化を進めている。

**ぐちゃぐちゃな人間関係で成り立っている施設がこどもの養育環境として良いのなら、同性の同居人がいる家庭はもっと推奨されて良いはず。**

【名前】ユウキ(仮名) 【都道府県】東京都

【立場】【紡ぐ】スタッフ

私は、【紡ぐ】という団体で活動するスタッフの1人です。

この団体は、LGBTの中で『T』を対象とした団体で、その中でも、生物学的・戸籍上は女性であるが、精神的には男性である、男性寄りである、中性である・または揺らぎがあるという、性別違和を抱えながらも、男性ホルモン注射・身体的手術を行っていない、または行うことを選択しないとしている方々と、そのパートナーの自助コミュニティです。

また、私個人も当事者です。

里親登録などに関する問い合わせをしたところ、電話や窓口で断られた体験

問い合わせ自体をしたことがないです。

LGBTの中にいる、私たちのようなカップル(性別違和を抱えながらも、男性ホルモン注射・身体的手術を行っていない、または行うことを選択しないとしている方々と、そのパートナー。戸籍上では女性同士となる場合があります)では、

**断られるだろうというイメージがあります。**

将来的に里親になりたいという思い、不安や疑問

家の広さや収入、ともに養育するパートナーがいるという条件が揃えば、自分自身も里親になってみたい、という思いはあります。しかし、私たちのようなカップルが里親でも良いと思ってくれる子どもがいるのか、学校など子どもの生活の中でそれが差し支えないか、などが不安としてあります。

「LGBTと里親制度」に関する意見

LGBTの中の、『T』に含まれる私たちは、精神的に男性(または男性寄り・中性)であるという認識でいても、身体や戸籍は『女性』となりますので、日本の現在の制度では婚姻ができません。

そういった人でも、里親になれる、または里親をしている例がある、こういった条件を満たせば、関われる道が開かれる、など、具体例や、はっきりとした明示があると、もっと関わりやすく、「里親」制度というものの認識も変わっていくのではないかと考えています。

そういった状況になった際には、

当団体のコミュニティに参加していただいている方々にも、

情報を共有したり、勉強会や研修などのお手伝いができればとも思っています。



【名前】 ぐみ(仮名) 【都道府県】 東京都

【立場】 【紡ぐ】(未治療FTM・FTXとパートナーのコミュニティ)スタッフ

将来的に里親になりたいという思い、不安や疑問

私自身、将来的に同性のパートナーと子育てをしたいと考えています。

今回レインボーフォスターケアの藤さんと里親経験のある方のお話を伺い、初めて里親制度を今までより身近に感じることができました。現在の制度では自治体によって異なりますが、LGBTが里親になることのハードルが高いように感じました。

里親制度がLGBTも含めた一般市民にとってもっと身近で開かれた制度であることを希望します。もちろん、経済的、家庭的な一定の基準は必要ですが。里親になる際、不安なのが、経済的な負担、フォロー体制、周囲の理解です。

特に周囲の理解についてですが、LGBTカップルの子育てが一般的に知られていない中で、対象の子供がいわゆる変な目で見られないか、差別されないか、が心配です。

「LGBTと里親制度」に関する意見

LGBTの中で子育てをしたいと考えているカップルは多いと思います。

もっと積極的に様々な家族の形(LGBTも含め)を認めてもらうことができれば、里親不足の問題も改善へ繋げていけるのでは無いかと思います。

【名前】ほのり（母）、まうり（娘：バイセクシュアル）（両者ともに仮名）

【都道府県】東京都

【立場】里親家庭（ほのり：主たる養育者 まうり：補助者）

（母ほのりが単身者として要件を満たし、里親家庭として子どもたちを養育している。母ほのりが里親を引退したあと、娘まうりは里親を引き継げるのか、また、仮に娘のまうりに同性パートナーができた場合、娘まうりとパートナーで里親になることが可能か、という疑問がある）

将来的に里親になりたいという思い、不安や疑問

まうり（娘）

- ・里親家庭内の世代交代（主たる養育者の交代）は不可なのか。再登録が必要なのか。
- ・東京都では「児童養育経験」が里親登録要件で示されているがそれは実子のみなのか。私は母とともに里親家庭で養育を経験したが、私のような里子養育経験も含まれるのか。
- ・社会通念上事実上の婚姻関係の家庭については、登録実例はあるのか。また社会通念上事実上の婚姻関係はどのように規定するのか。証明書や経歴を提出するのだろうか。
- ・親族や配偶者に重点を置くのは戸籍の関係を重視するという意味なのだろうか。裏を返せば戸籍関係以外は信用がない、ということか。それならば「同性パートナー同士の養子縁組」や「自分の親とパートナーが養子縁組をして、自分とパートナーがきょうだい」となれば里親家庭として信頼できるということか。

「LGBTと里親制度」に関する意見

ほのり（母）

- ・こども一人一人に合った養育環境のために、こどもが里親という選択を出来る社会になることを願っている。
- ・現里親の立場から、**里親の仲間としてLGBTを歓迎する。**
- ・LGBTのこどもが居る。全ての大人が全てのこどもを受け入れることが出来れば理想。でもLGBTのこどもを受け入れない環境（施設や家庭）があるかもしれない。そうなった時そのこどもにとって選択肢が広がるように、LGBTの家庭というのがあってもいいだろう。

まうり（娘）

- ・実親に返すのが里親家庭の役割であるならば、**里親家庭になにより優先されるのは「こどもの安全」ではなかろうか。**
- ・東京都認定基準に示される（都が求める）家庭環境はなにを基準に規定したのか。大半の家庭を基準にして規定したのか。核家族に一人親。共働きに保育園通い。主夫の家庭。**今一度現代社会にある家庭環境を基に、認定基準を精査してほしい。**

【名前】匿名 【都道府県】神奈川県

【立場】児童養護施設職員

私は児童養護施設職員であり、トランスセクシュアルのF t Mで現在は男性職員として勤務をしています。今回、意見を述べるにあたって3つの立場からお話したいと思います。

#### 施設職員として

現在、勤務している施設に入所している子どもの9割は何らかの虐待を受けています。1番愛されたい親たちから不当な扱いをされたということで、多くの子どもたちは心に大きな傷をもっています。また、子どもたちは自分や他人を傷つけたりしつつも、自分を愛してくれる人や認めてくれる人が欲しい等思っています。

このような子たちには寄り添い、隣で「大丈夫だよ」と声をかける大人の存在が必要であり、それはその子の事を受容し、心の傷を手当てできるならば、セクシュアリティは関係ないと私は思います。

#### トランスセクシュアルとして

今現在、男性職員として勤務をしており、管理職以外は僕がF t Mとは知りません。また、個別対応職員ということでフリーとして多くの子どもと関わっています。

子どもと関わって思いますが、入所児童の中に男性に対して怖いと思う女子が比較的多い気がします。性虐待を受けた子たちはもちろんのこと、DVを目撃した子や父親が不在で男性とどう接したらいいじゃ分からない子も男性に対して警戒心と恐怖心を持っています。

そんな子たちですが、私に対しては早い段階で慣れてくれます。元女性ということで、多少、女性の部分も持ち合わせているので警戒心や恐怖心を解きやすいのだと思われます。

このことから考えると、LGBTの強みとして、もし、重度の性虐待を受けた子どもがいたとして男性に対して強い拒否が見られるのであるならば、レズビアンカップルが里親となり、まずは家庭的な雰囲気過ごすことを目的とし、心のケアに努めることが有効であると思います。また、子ども自身がLGBTだった場合、LGBTの方が里親であると、気持ちを理解してもらいやすいので、自己肯定感の向上につながると私は思います。

#### 一個人として

「LGBTの人は健全な子育てはできない」「LGBTに育てられると子どもがかawaiiそうだ」等の声を聞くことがあるが、本当に問題なのはLGBTだからなのだろうかと思はいます。LGBTを受け入れない社会が問題なのであり、今日、LGBTに限らず、様々な家族が存在しているのは事実であり、社会が家族の多様性を認識し、受け入れることがとても重要であると考えます。その為にもまずは知識として知ること、また、1人1人が身近な問題として考えることが必要だと私は思います。

【名前】小野 春                      【都道府県】東京都

【立場】同性パートナーと子育て

私は、同性パートナーと、お互いの連れ子（現在高校生と中学生）を幼少期から育てている者です。小野春と申します。

LGBT のひとが里親になることについて、まだまだ偏見が根強くあるように感じます。行政に問い合わせたところ、まるで性的ないたずらでもしようとしているかのような言われようをしたゲイ男性の友人の話も聞きました。彼は養護の専門家で、ご両親やパートナーの協力も得られたにもかかわらず、です。

このような誤解は、特に子育てを、現にしている LGBT の人を知らないがゆえのことなのではと思い、同性パートナーと子育てをしている身として、思うところをお送りしようと思いました。

10年以上の年月を、同性パートナーと子育てをしてきましたが、三人の子どもたちは特に問題もなくここまで育ってきました。

私は異性婚をしていた時期もあるのですが、元夫と子育てしていた頃と、同性パートナーと子育てをしている今は、何も変わるところはありません。

LGBT の家族は、日本に決して少なくはありません。

すでに多くの LGBT の方たちが、子育てをしています。

これは、親のセクシュアリティの話なのではなく、単なる子育ての話です。

私たちは子どもを愛し、子育てを人生の真ん中に据えて来ました。

ほかの多くの LGBT の親たちもみんな、地域社会に溶け込み、子育てをしています。

LGBT というところだけにとらわれることなく、その人自身が、子どもを預けるに足るのであれば、偏見にとらわれることなく積極的に、里親にしていきたいと思います。

LGBT であることは子育てをするうえで、なんら支障のあるものと思いません。

LGBT は子どもを持ちにくい立場にあることもあり、アメリカなどでは積極的に里親として活躍されていると聞いています。日本でも、1日も早く、平らかな目で見ていただける日がくることを望んでいます。

【名前】 ケイコ（仮名） 【都道府県】 埼玉県

【立場】 バイセクシュアル女性

10年以上前、大阪で同性のパートナーとマンションで同居していました。

毎日新聞大阪版「あなたの愛の手を」に毎週掲載される里親募集のコーナーを二人で真剣に読んでいました。かわいいお子さんの写真を見ながら、「私たちの家で育てることができないか」と考え、とりあえずそこに掲載されている問い合わせ先に電話をしました。

「里親をやってみたいのですが」

電話に出た担当者は「関心を持っていただき、ありがとうございます！」と声を弾ませて、「どちらにお住いですか？結婚されていますか？」と。

「大阪です。女性二人で暮らしています」とお伝えしたところ、「ああ…独身なんですね。結婚していないと里親はできないんですよ」と残念そうでした。

「独身で登録できないんですか？」

「大変なことも多いので、お二人で育てるのが条件です。独身は無理なのです」

「私たちは、結婚していないというか『できない』のですが、二人で暮らしているし、二人で育てるつもりです。二人で登録します。経済状況も大丈夫です」

その時、担当者の方に呆れたように笑われました。

「あの…若いのに関心を持っていただきありがたいのですが…（笑）何度も申し上げますように独身はダメなんですよ。結婚してからまたお電話いただけますか？」

そして、電話が切れました。あの時の、悲しい気持ち・虚しい気持ちは今でも消えません。しっかりとした大人が二人いるのに、あの写真の子どもたちを預かることすらできない。この国では同性カップルは子どものために里親の登録もできないのかと情けない気持ちにもなりました。

その時は、自分たちは自分たちは…という思いが強かったのですが、今冷静に考えると、**あの時、1人のお子さんが家庭で暮らす可能性を失ったのだと思います。**

どうか、夫婦に限定することなく、同性カップル、そして様々な形で複数の大人が暮らしている場合に里親に登録できるようにしてほしいです。子どもたちのためにも。

よろしくをお願いします。



さとおやオピニオン（公開版）

2016年9月発行

発行 一般社団法人レインボーフォスターケア

〒331-0823

さいたま市北区日進町 2丁目 544番地 1

埼玉NPOハウス内



**RFC**  
RainbowFosterCare